

始筆

No.3

令和 6年 2月 1日
京都市小学校書写教育研究会

【京都市小学校児童書き初め展】

令和六年一月十三日(土)京都市総合教育センターにおいて、『第九十三回京都市小学校児童書き初め展』を行いました。ここ数年、新型コロナウイルスの影響により、校内審査・校内展示での実施に留まっていたが、今年度は、各校の特選作品と当番校の育成学級の作品を実際に展示することができ、多くの方々にご来場いただきました。嬉しいように作品をご覧になる皆様の顔を見て、会場にいた研究会員一同、たいへん嬉しく思いました。ご指導いただきました先生方、代表幹事の皆様、多くの方々に深く御礼申し上げます。

また、冬季休業中に各校に特選と入選の賞状を送付しました。賞状を間違えないように、早めに児童にお渡しください。

【京都市小学校書写教育研究会 カリキュラム・マネジメント】

〈二年実践〉

書写「書いてつたえ合おう」・生活科「広がれわたし」

生活科「広がれわたし」の学習で、「わたしのこと発表会」を授業参観時に行う予定です。そこで、家の人への招待状を書く活動と、書写「書いてつたえ合おう」の学習を絡めて、相手意識をもち、目的を考えて書写することについて学習をしました。

第一時では、「筆記用具の選択」・「用途に合わせた紙の選択」・「縦書きと横書きの選択」の三点を扱いました。児童が、自分で招待状にふさわしいものを選択するために、道具を準備し、自由に試し書きができるようにしました。試し書きをして、それぞれの道具のよさを話し合いました。

〈実践して〉

普段見慣れない道具に興味をもち、最初に道具を決めてしまう児童がいました。しかし、筆記用具と紙の組み合わせを変えたり、試し書きしたりすることで「書きやすさ」や「もらったときに特別な物がどうか」が分かるなどのことに気付いた児童もいました。今回の授業実践を通して、児童が、どのような招待状が相手に喜ばれるか、どのような文字が読みやすいかなどを主体的に考え、用具の選択から意識したことがカリキュラム・マネジメントによる成果と言えます。



手書き文字は、パソコンの活字では読み取れない温かみや書いた人の感情をのせることができます。正しい字形で書くこと、中心線をそろえて書くこと、基本点画に気を付けて書くことなど、書写の学習を通して、手書きには、自分の思いを伝えることができることを児童に伝えていけたらと考えています。

【三年生 書写の実践】

京都市小学校書写教育研究会会員が毛筆書写の学習を進める中で、各校の先生からよく質問を受けるのは、準備・後片付けの仕方やその時間についてです。今回は、毛筆授業で実践を続けている先生の取組を紹介します。

《準備・片付け》

初めは、画用紙に書いている言葉(用具の名前)や写真を追いつながら、一つ一つ取り出したり、片付けたりします。何をどうすればよいのか、文字と写真や映像を使って明確にすることでどの子も迷わず作業ができるので、時間もかかりません。また、準備の仕方や後片付けの仕方は、慣れてくると色画用紙の掲示だけになっていきました。



《手順》

書写の時間は、まず「めあて」を設定し、試し書きをします。その後、教材文字を示し、教材文字と自分の文字を比べ(自己批正)、気付いたことを全体で交流します。自分が気を付けることを紙に印刷した教材文字に赤で書き込みます。この際、タブレット端末を活用して、デジタル教材に書き込むこともできます。その後、自分に合った練習をして、まとめ書きに進みます。最後は、硬筆で学習プリントに書いて、これまでの自分の書字がどのように変容したかを確かめます。

左の枠のように、毛筆・硬筆に関わらず、学習の流れを黒板に書いて、フラッシュカードで示したりしておくことと見通しがもてて分かりやすいです。毎回の授業で繰り返し実践することにより、学習の流れが定着し、主体的に学ぶ姿も見られるようになります。また、準備や片付けの時間が短くなっています。二月からでも遅くありません。次の学年に向けて、ぜひ試してみてください。

書写 学習の流れ

- ① めあて
- ② 試し書き
(硬筆・毛筆)
- ③ 自己批正
(赤えんぴつ)
- ④ 練習
(りくで墨をするなど
留意点を書いておく。)
- ⑤ 清書
- ⑥ まとめ書き
(硬筆)
- ⑦ 片付け
(終了時刻)